

(仮称) 篠路駅周辺地区まちづくり計画 第2回検討委員会 議事要旨

【日時】 令和3年10月28日(木) 19:00~20:30

【場所】 篠路出張所2階 会議室

【出席者】

検討委員会委員(8名)

所属/役名等	氏名(敬称略)
篠路地区街づくり促進委員会/会長	井形 信広
札幌駅前通まちづくり株式会社/ 統括マネージャー	内川 亜紀
北海道大学大学院工学院/教授	小澤 丈夫
株式会社アークス/ ゼネラルマネージャー代理	佐藤 直樹
篠路茨戸連合町内会/会長	進藤 幸司
北星学園大学 経済学部/教授	鈴木 克典
北門信用金庫/篠路支店長	森 雅哉
JA さっぽろ/篠路支店統括支店長	渡邊 直樹

※五十音順

オブザーバー

所属/役名等	氏名
北区市民部 篠路出張所/篠路出張所長	高松 幸一

事務局

所属/役名等	氏名
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/事業推進課長	小仲 秀知
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画調整担当係長	吉原 康次
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	平 将太
まちづくり政策局都市計画部 事業推進課/計画係	大路 陽介

【議事・進行】

1 はじめに

- 開会（挨拶、事務連絡）

2 議事

・・・・・・・・資料1

- 前回のおさらいと補足
- まちづくり計画について
 - まちづくり重点エリアの方向性
 - 各エリアに期待される機能
 - 市有地利活用具体化に向けた前提条件の整理
 - 機能の配置例と効果
- 地域主体のまちづくりの取組・活動について

3 次回日程の案内など

【議事要旨】

1 はじめに

○ 開会(挨拶、開催趣旨の説明)

(事務局)

- ・昨年10月に第1回目の検討委員会を開催して以降、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて人が集まるような会議の開催が難しい状況が続き1年が経った。こうした状況下でのコミュニケーションの新たな形として、書面による開催やインターネットを活用したウェブ会議といったものがあり、何とか開催できないか検討していたところ、先月末で緊急事態宣言が解除され、予断を許さない中ではあるが感染者数が減少している状況も踏まえて、感染対策を行った上で、会場にて開催する運びとなった。
- ・本日の会議は前回の開催から間が空いているので、まずは前回の振り返りについて説明させていただき、その上で今後のまちづくりの方向性についてご検討、ご意見を頂戴したい。委員の皆様には様々な忌憚のないご意見を頂きたい。

2 議事

○ 前回のおさらいと補足

(事務局)

- ・篠路駅周辺地区は篠路村の時代から始まり、北区北部地域の中心として栄えてきた地域であり、札幌市のまちづくりの上位計画である「札幌市まちづくり戦略ビジョン」でも「地域交流拠点」として位置づけられている重要な地域である。今後、鉄道高架化事業や土地区画整理事業、周辺道路整備事業が進むが、これらの社会基盤整備に加えて、低未利用な状態となっている市有地や駅前の利活用を図るほか、地域主体の多様なまちづくり活動の展開により、もっと住みよいまちになっていただきたいと考えており、これらを踏まえて、今後のまちづくりの方向性・展開を示すものとして、新たなまちづくり計画を作る。

(篠路のまちづくりの柱について)

- ・今後のまちづくりについては4つの柱で進めたい。「社会基盤整備」、「市有地の利活用」、「東口駅前街区の利活用」、「地域主体のまちづくり活動」を掲げている。これら4つのうち「社会基盤整備」については既にある計画に基づく事業なので、今回の計画で議論するものではない。今回議論する内容は、「市有地の利活用」、「東口駅前街区の利活用」そして、「地域主体のまちづくり活動の方向性」についてである。地域主体のまちづくり活動の具体的な活動は、活動の担い手となる方がいて初めて実現性が出てくるものなので、計画では方向性までを主に議論させていただき、実際の活動については個々の担い手や活動する方に委ねるという考え方である。しか

し、「こういう活動が必要、こんな活動をしてみたい」など活動のアイデア出しをしていただけると将来的な展開に繋がりやすいと思うので、この点についてもご意見頂きたい。

(まちづくりの段階的な検討・実現のイメージについて)

- ・提示資料の駅前利活用に関する駅前とは、概ね区画整理事業が行われる区域全体を指しており、その中でも駅に近接したところを駅前街区、それ以外のところをその他街区としている。まちづくり計画で方向性を定め、まずは市有地のA・C街区の利活用について具体化させる。これにより地区の魅力やポテンシャルを向上し、その効果を市有地B街区や駅前街区に繋げていき、段階的にステップアップしながら社会基盤整備が完了するおよそ10年後を目指して整える。

(検討委員会の流れ)

- ・検討委員会は全5回を予定しており、第2回となる本日はまちづくり重点エリアの方向性と地域活動について議論し、次回の第3回では、今後の展開や地域に必要な活動・取組とその主体について意見交換したいと考えている。これらの内容を踏まえて、第4回はまちづくり計画の素案をご確認いただくとともに、検討してきた活動・取組の具体策への意見交換を行い、第5回でまちづくり計画案の最終確認と考えている。当初は今年度末の計画作成を予定していたが、コロナの影響により遅れているため、来年度末の策定を目指す。

(まちづくり計画の構成図)

- ・前回の検討委員会で、基本理念として誰もが暮らしやすい笑顔あふれるまちを掲げた。それを踏まえた目指すまちの将来像として暮らし、つながり、魅力があり、まちづくりの方針として①から⑥の6つを掲げており、これらはいずれも過年度のワークショップの議論を取りまとめた「みんなの思い」を基にしている。本日はこれらを受けた各重点エリアの方向性と展開についてご意見をいただきたい。

(まちづくりの方向性(案)の再確認)

- ・既に機能が集積している西エリアと新しく重点エリアとする駅前エリア、東エリアの3つのエリアにバランスよく機能が配置され、様々な地域活動で全体のまちづくりを支えることを目指す。これを基に更に具体化した方向性については後ほど示す。

(第一回検討委員会の報告)

- ・別紙1では、ご意見のまとめと、ご意見をどう生かしていくかをまとめている。駅前の高架下の利活用の検討や民間開発については、市場性や地権

者の動向を踏まえて対応していきたい。交通については、ソフト面で対応可能な取組について検討していくことや、ハード整備として、企業ニーズに応じた容積率の緩和、引き続きサウンディング調査を実施していきたい。まちづくり活動については、担い手の発掘や育成に繋げていきたい。その一歩目として、後ほど社会実験についてご説明する。

(これまでの議論の整理)

- ・別紙2では、第1回地域協議会、検討委員会の意見をまとめている。地域協議会、検討委員会でのご意見、事業者ヒアリングの結果、住民アンケートを反映させて、第2回地域協議会、検討委員会でお示しするコンセプトと役割や期待される機能の例に反映させている。

(計画の目指す方向性について)

- ・前回、まちづくり計画の目標期間を10年と説明したが、地域協議会などの場で今後10年間のその先も見据えた計画を考えていくべきというご意見があったので、この点について補足する。ご意見のとおり、数十年先を見据えた長期的な方向性を示すことも重要と考えている。数十年先を予測するのは容易なことではないが、人口減少が予想されていること、その中でも、人と人との繋がり・コミュニティという点は大事な点としてあり続けるであろうという考えのもと、「人口減少局面でも豊かで持続的なまち」と、「地域の魅力、コミュニティが発展するまち」の二つを長期的な方向性として示している。これを実現するために今後10年で取り組む具体の事柄を位置づける計画としたい。

(篠路駅周辺地区の位置づけについて)

- ・篠路は地域交流拠点に位置付けられ、「地域の生活を支える主要な拠点としての役割を担う地域」とされており、北区北部3地区の中心としての役割が期待されている。
- ・駅前には「都市機能誘導区域」と「集合型居住誘導区域」に位置付けられており、利便性と魅力を重点的に向上させるとともに、集合型の居住機能の集積を目指す区域となっている。地域交流拠点では、多くの市民が利用する施設を誘導施設に定めている。篠路には区役所や区民センターなどはないが、これらに準ずるものとして篠路出張所やコミュニティセンターなどが立地している。

(現況分析のまとめの再確認)

- ・「エリアの特性・活動」としては、「若い世代が住み続けたいくなる仕掛けが必用」「地域資源の魅力を共有・伝え続けることが重要」「日常的な地域コミュニティの場が重要」とした。また、「施設・土地の状況」については、「地域交流拠点としての更なる利便性向上が必要」、「利便性の高い居住環

境など、子育て世代にも選んでもらえる環境が必要」、「にぎわい・交流の場の創出が課題」とした。

(北部3地区のまとめ)

- ・篠路は北区北部3地区の拠点という点で、もう少し広域での分析も必要と考えて、追加の分析を行った。3地区いずれも、戸建の多い郊外住宅地であり、篠路同様少子高齢化の進行が予想されている。施設や土地の状況は、高齢者福祉施設や保育園、幼稚園および高齢者・子育て交流機能は3地区とも複数立地しており、一般病院は各地区に1~2施設立地、3地区とも診療所やクリニックは生活圏に複数立地、商業施設はどの地区にもある程度立地している。このことから、身近な生活を支える生活利便機能は3地区内で充足している。篠路には、一般的な地区よりも少し大きな行政・交流機能として出張所やコミセンがあることが特徴であり、行政・交流拠点の役割に加え、北部3地区の拠点として新たな価値や地域の魅力を高めていくことが必要と考えている。

<質疑応答>

質疑なし

○ まちづくり計画について

- まちづくり重点エリアの方向性

(事務局)

(重点エリアの方向性について)

- ・駅周辺地区を、業務や商業などの機能が既に集積している「西エリア」、鉄道高架や区画整理事業などが進み、今後の発展が期待される「駅前エリア」、市有地を含み新たな機能の集積によって地域全体への波及効果が期待される「東エリア」の3つのエリアで捉えている。このうち駅前エリアと東エリアを重点エリアに位置付けている。一般的な地域では機能が一極集中するが、篠路の場合は閑静な住宅地が広がり、これら3つのエリアに機能をバランスよく配置し、地区全体が拠点の役割を果たすことで東西一体の拠点を形成することが必要と考えている。
- ・駅前エリアは前回の検討委員会で「交流滞在」「利便性の向上」というキーワードを掲げた。これをもとに「暮らしに必要な機能と人々の交流機能により魅力的な駅前を演出」というコンセプト案としている。北区北部地区の行政機能の中心であることなども踏まえ、エリア周辺に存在する地域資源を最大限に生かした交流・滞在が可能な場づくりを目指す。求められる役割として、生活利便施設などが立地することにより駅および駅周辺の利便性の向上、地域のコミュニティ形成に寄与する交流空間の創出、地域の資源を活かした活動・取組を考えており、「利便・交流ゾーン」という位置づけにしている。

- 東エリアは前回の地域協議会で「住みたくなる・住み続けたい」「周辺環境との連携調和」というキーワードを掲げた。住みたくなる、住み続けたいというには2通りの考え方があり、魅力的な機能により間接的に人を呼び込むもの、住居、業務、教育機能など直接的に人を呼び込むものがある。これをもとに「多様な機能の集積により多くの人々が活動し、地域の活力源となるエリア」というコンセプト案を示している。市有地を活用して地域に活力をもたらすまちづくりを展開し、求められる役割として、「住みたくなる・住み続けたいまちとなるための魅力の創出」「多様な活動と生活の受け皿となり地域の活力を向上」を考えており、既存の福祉機能や商業機能も含めて「にぎわい・交流・福祉ゾーン」という位置づけにしている。

➤ 各エリアに期待される機能

- 駅前エリアに今後、期待される機能の例としては、小規模な買い物施設や飲食店などの商業機能、多世代が集まり交流できる機能、生活利便性の高い駅前居住機能、交流の拠点にふさわしい地域の情報発信機能などが考えられる。
- 東エリアは、市有地なので現時点での市の考えを示している。先ほど示した土地利用のコンセプトや周辺施設との連続性を考慮した機能集積を図りたいと考えている。周囲に保育施設や福祉施設のある市有地 A 街区については、特に周辺環境へ配慮した土地活用を図りたい。こうしたことに留意しながら、民間事業者への土地の賃貸や売却による土地活用を想定している。ただし、B 街区は現在パークゴルフ場として暫定利用されているので、運営団体や地域のご意向などを踏まえて将来の活用可能性を検討する。
- これらを踏まえた市有地に期待される機能の例として、「休日などに家族で利用できる商業・レジャー機能」「子育て世代をサポートする、子育て世代が交流できる機能」「若い世代をはじめ、就労者や学生を地域に呼び込める業務・教育機能」「周辺環境と連携した医療・福祉機能」「多世代の健康増進に寄与する機能」「オープンスペースなどの広場・交流機能」「その他、居住機能など周辺と調和のとれる機能」を挙げている。
- エリア全体の回遊性については、道路整備や鉄道高架によって東西市街地の分断が解消され、移動の円滑化が図られることで回遊性が向上することになる。このため、その中心として駅前の顔作りを積極的に行っていくことが必要と考える。

➤ 市有地利活用具体化に向けた前提条件の整理

- 市有地は第一種住居地域、または第一種低層住居専用地域に指定されている。A 街区と C 街区の一部は地区計画区域となっている。
- 第一種低層住居専用地域は低層住宅のための地域であり、戸建て住宅や店

舗などが建てられる。第一種住居地域は住居を中心に、これらの環境を損ねず支えるための機能として、床面積が3000平米までの店舗などが建てられる。大規模な市有地を有効活用しつつにぎわい交流に資する土地利用とするためには、第一種低層住居専用地域では非常に難しく、用途地域の変更なども検討が必要である。周辺との調和を考慮すると、第一種住居地域よりも緩い規制は難しいと考えられる。

- 企業へのヒアリング結果を改めてご説明する。これまで可能性ある業種としては、居住、商業系のニーズが主だったが、新たに医療系のニーズが示された。なお、医療施設以外はコロナ前に実施したヒアリングのため、現在とは状況が変わっている可能性があることをご承知おきいただきたい。
- 札幌市では、市有建築物及びインフラ施設等の管理に関する基本的な方針を定めており、今後の取組方針として、施設総量の抑制や総量規模の適正化を図ることとしている。今後人口が減少していく見込みであるなか、公共施設の新設は非常に難しく、複合化による再編成を進めていくことが基本的な考え方となっている。

➤ 機能の配置例と効果について

- 企業の進出ニーズから大きく居住機能、商業機能、業務教育機能の三つの機能が考えられる。まちづくりの方向性から、大きな土地を全て居住機能で埋めてしまうことはふさわしくないと考えられるので、残りの二つの機能についてそれぞれ配置例を示して検討する。
- 配置例①は、商業系の機能を中心に据えた配置例である。にぎわい・交流に寄与する民間開発として、ホームセンターや薬局、温浴施設、スポーツ施設など多様な用途で市有地を活用していくパターンである。期待される機能例で掲げたような多様な機能の組み合わせによるまちづくりが可能であり、地域住民が日常的に利用できるにぎわい・交流機能により、流入人口の多い子育て世代にとっての篠路の魅力が高まる。また、こうした施設の立地による雇用創出の可能性も考えられる。しかしながら、参加企業の商圈分析により市場性や事業収支などを踏まえた展開となるので、実際にどんな機能が導入され、どの程度にぎわい・交流機能が向上するかは不透明という懸念もある。B街区についてはパークゴルフ場の動向を見据えて、将来的な可能性を検討することになる。
- 配置例②は、業務居住系の機能を中心に据えた配置例である。進出ニーズが示されている医療施設をC街区に、宿舎をA街区にそれぞれ配置している。この例では、市有地の面積を最大限かつ継続的に有効活用可能で、見舞客や研修生等の来街者、就労者の増加により、駅前を含めたまちづくりの期待が高まる。また、宿舎の設置により、働く世代を中心とする若い世代の人口増加が期待され、医療関連施設等の立地による雇用創出の可能性も考えられる。進出ニーズが示されているのは、日常的な診療施設ではなく高度医療施設のため、地域が日常的に利用する施設ではないが、まちづ

くりの種地としてある土地なので、例えば、オープンスペースや地域連携の取組などによる日常利用を検討していく。B街区については、配置例①と同様に、パークゴルフ場の動向を見据えて、将来的な可能性を検討することになる。

- 本でご確認いただきたいのは、どちらの例も目指すべきまちづくりの方向性と相違がないかという点である。今現実的に考えられるものとして、それぞれの長所と課題をご確認いただければと思う。
- 別紙3では、第2回地域協議会のご意見をまとめている。今までになかったような新しいご意見として、「市有地の配置に関して市有地全て一つの用途に使うのではなく一部を住宅にするのもありではないか」、「駅前エリアに関して大きなまちづくりは篠路には合っていないと思う」、「駅前に出張所を移転したり、公園があると子供を遊ばせることができていると思う」、「地区全体に関しては手を挙げたところに土地を売るのがまちづくりなのか、駅前が商店街になるように店舗を呼びよといった形の方がわかりやすいまちづくりではないか」、「公園を利用できると連続性がある」などのご意見があった。

<質疑応答>

(副委員長)

- 市有地Cについて、グリンピアが出来たときには、団地だけ整備したが商業施設がない、買い物が不便ということで、市が商業施設を誘致した。なかなか来てくれる方がいなかったようで、20年間の地代を取らないという条件で立地したと聞いている。地代もあがっている中、商業施設を誘致したいのであれば、それぐらいの条件を提示しないと、設備投資もかけて大規模な商業施設は来ないと思う。もしそうした企業に来ていただきたいのであれば、容積率や建ぺい率といった条件を緩和して誘致できればと思う。

市有地のBについて、パークゴルフ場はいつまで利用を認めるか。プレーする人は多いが、管理をしている運営主体も大変で困っていると聞いている。大きな広場やイベント広場等々、市有地Bを篠路の方々が有効に使えるようにしてほしい。

新琴似では、住民の要望を受けて札幌市が公園に行事で使える舞台を設置したと聞いている。篠路もそうしたことができるのであればやってほしい。

(事務局)

- 市有地は、単純には民間施設の立地が難しいという時代背景もありながら、今回のまちづくりの方向性をもとに、より良い機能の立地に向けた進め方について検討していく。引き続き皆さまと意見交換しながらやっていきたい。

B街区は、パークゴルフ場の運営が大変ということをお聞きしている一方で、使われている方の交流の場となっているということもある。短期的な展開は難しいと思うが、使っている方、管理されている方の双方の考え方やご意見を丁寧に伺いつつ、長期的な方向性について、今回まちづくり計画に載せさせていただいて、開発のタイミングもあるが皆さんと同じ方向を向いた上で、検討していきたい。

(委員)

- ・市有地利活用の配置例①②について、配置例①は企業の進出ニーズがあるかどうかある程度不透明な部分はあると思うが、配置例②は医療施設のニーズがあると書かれている。また、医療施設を市有地 C、さらに市有地 A に職員住宅とも書かれている。これは資料にある通り、タイミングが重要な部分だと思う。まちづくりは基本的にある程度人が呼べる施設、市有地 A、C を医療施設と人口が増加する職員住宅で配置することになると、残るのはパークゴルフ場がある市有地 B だけになるが、その後の色々な部分に展開される部分があると思うので、配置例②の進め方はいいと思っている。

(委員)

- ・市有地について、今の篠路地域の人口だと商業施設は採算が取れないという意見もある。将来的な人口減少も予測されているため、私も商業が立地しても経営が成り立たないと思う。医療関係や福祉施設が立地すると、JR やバスの利用者も増えて篠路駅前の活性化にもつながる。勤務先として考えても札幌から篠路まで JR で 20 分、篠路駅から歩いて 10 分～15 分という立地なので、篠路駅を中心に賑わいが出来てくると思う。また、道の駅、物産店のような事業を誘致して篠路駅前を賑わいある駅前とする。駅前に賑わいがなければ公園を整備しても利用する方はほとんどいない。
- ・旧琴似川は草が繁茂し水が流れない状況である。今から北海道にお願いして、きれいな水が流れる川に整備していかないと、篠路地域の自然を残すといった議論にならないと思う。

(事務局)

- ・まずは人口を増やしていくという観点で業務機能がいいのではないかとのご意見は、まさにその通りと考えている。
- ・旧琴似川については、この計画の中で急に水を増やすということは難しい。

(委員)

- ・地域協議会など色々な意見をまとめて機能像などを整理するとどうしても

よくある文言になりがちだと思う。今の資料はどこが篠路の色になるのか見えにくくなっているが、今度はそれに色をつけいく作業が必要と思うので、どこを強調したい、といったことなど3回目以降に深掘りしながら資料を作っていただきたい。

- 市有地について使い方が明確に書かれており、議論のメインでとなっているが、今回のまちづくりのきっかけは高架化や東西の移動が変わるということもあると思うため、駅前の考え方も次回以降に同じようにまとめて頂きたい。

(委員)

- 質問のテーマを絞ってもらわないと発言しづらい。駅前なら駅前、市有地なら市有地と分けるなど、具体的なテーマを絞って質問を受けるのが良いと思う。

(委員長)

- 市有地の議論が出ているが、まちづくり計画ということなので、やはり篠路地区の大体の方向性や求められる機能、市有地をどう生かしていけばいいか、その辺を具体的にご意見いただいて、今後計画に書いていくということかと思う。

(事務局)

- 事務局の説明もわかりづらいというのがあったと思う。駅前や市有地でどういった展開をするのが良いのかということだが、駅前と市有地の展開のスピードが異なるので、市有地は具体化した書き方をしている一方で駅前はまだ機能的な話しかない。比べると駅前の方がもったいないと思われるところがあるのかと思う。
- 今回特にご意見頂きたいのは、市有地はある程度の方向性は見えてきており、民間に開発をゆだねていくにあたり、最終的にどのように展開できるか不透明な部分はあるが、例を挙げた二つの案どちらでも最終的な着地がまちづくりに資する展開になっているのかという点。また、駅前については市の土地ではないので、土地の所有者の協力を得ながら展開していくにあたっての考え方に大きく問題がないかという点。難しい言い方、よくある言葉を使っている、ということは検討が足りなかったと反省している。また、先ほど委員からも貴重なご意見を頂いているので、これを踏まえて三回目以降、模索していきたい。

(委員)

- 今回は特殊で、まちづくり計画を作りつつ、その一部に市有地があり、民間を誘致することによって篠路の起爆剤にならないか、といった考え方であると思う。配置例に関する“本日特にご議論いただきたい”という部分

が、一番議題にしたいところだと思う。

- 配置例の懸念事項について、例えば配置例①だと商売的に成り立たないといけなくて参加企業の商圈分析により、どの程度のいわゆる交流機能が向上するか不透明でやってみないとわからない。配置例②の場合は、直接地域が日常的に利用する施設ではないということだが、地域の方が気楽に利用するクリニックというよりは、どちらかというと人が集まって来られて高度医療を受ける、そしてその医療に必要なスタッフは近くに住むというメリットがある。こうした配置例と住民意向の齟齬があってはいけない。起爆剤として活かしていくのであれば事業者へ話を聞きながら進めていくと思うが、地域意向で懸念事項があれば慎重に進めなければいけない。検討委員会で話し合っていくべきだと思うが、地域と計画を検討し、それに沿った企業立地を図っていくのか、起爆剤としての利活用と計画の関係はどのように考えているのか。

(事務局)

- 利活用を実行する段階の考え方としては、市有地のある東エリアの方向性として「地域の活力になる」という目指す姿を皆様と共有した上で、その目指す姿にあう事業者を募集していくという流れである。計画を基に、皆さんの描いた絵を実現する事業者を選んでいくので、そういった視点でご意見いただければと思う。

(委員)

- まず皆さんの意見を聞きながら計画を作り、それをベースに募集するということが、企業誘致ありきではないということ。そのため、検討委員会では、どこまで細かく踏み込んだ表現とするか、その程度を議論するということになるのではないかと。

(委員長)

- どこまで踏み込むかということもあるが、基本的には住民あってのまちづくりであり、住民の方々がどのような機能求めているのか、商業機能にしても既存の商業施設とのバランス、足りない、欲しい機能など、ニーズをしっかりと議論していく必要がある。
- 企業の商圈分析は当然あるが、住民の方々が望むニーズを分析の中で活かしていければ、ウィンウィンの関係で実施する可能性もある。商業機能も大規模なイメージの施設より、多機能であったり、いろんな形で住民に資するような形での立地という事例もある。コンビニエンスストアも、既存の人口規模では進出できないようなところでも、住民の方々の要望も斟酌して、例えば防災など様々な機能を持って立地するなど、地域で維持継続していくというような形もある。まずはこの地区にとってこういった機能が欲しいのか、それがニーズとなり今後事業者にも響くと思うので、この

あたりのご意見を出していただきたいと思う。

- ・病院について、クリニック的なものではなくても、地域に立地する病院として、例えばオープンスペース、医療福祉に関していろいろと何か活動してくれる、など、地域と一緒に色々やっていただくことによって、地域に浸透してもらえる面もある。立地の有無のみの議論ではなく、こんな機能を持っていただければ、という前向きな形で、いろんな意見を出していただきたい。

(副委員長)

- ・かつて商店街の会員だった写真館が横新道沿いから駅前に移転したら、客が減ってしまった。札幌へ行ける利便性はあるが、そうした商売では車が大事。西口も物販はない。東側もロータリーを作っても、同じようになってしまうのではないか。鉄道の下に車を通し、商店を集積することもできるのではないか。

(委員長)

- ・具体的な話の中で検討していきたいと思う。

○ 地域主体のまちづくりの取組・活動について

(事務局)

- ・これまでのまちづくりは公平性、公共性を大前提に一定の環境水準を作ってきたが、全国的な少子高齢化が進み、地域課題やニーズも多様化しているという中で対応が求められている。近年は公民連携、官民連携といったキーワードが重要視されている。地域文化やコミュニティの調整、斬新な取組、民間投資の誘引、そういったことによって地域の魅力や個性を高める仕掛け作りが重視されている。地域の価値を維持向上するためのまちづくりというのは、行政の力だけじゃなく、むしろその地域住民の方の力、あるいは民間事業者の方の力を最大限発揮させて、まちづくりに取り組んでいくということが基本となる。地域交流拠点である篠路地区において、その魅力を高めるためにも、地域の強みを最大限に生かして駅前再生や市有地活用などのあらゆる機会を最大限に生かしながら、穏やかな住環境と暮らしを支えるコミュニティ、あるいはその環境を構築していくことが重要である。
- ・本検討委員会とは別に、地域の地縁団体等の地域の方々を中心とした地域協議会を組織して、まちづくり計画のみならず、街をより良くしていくためのアイデアや、具体的な実践方法について意見交換を進めている。コロナ禍で十分な議論ができていないが、検討委員会を含めてこれまでに様々な意見が出ていた。特に、小さくできることから始めよう、駅前や旧琴似川沿いなど今あるオープンスペースや使えるスペースを使いこなすため、まずは活用していくような取組が必要である、キッチンカーや小さなスベ

ースでコミュニティを繋げるような取組をしていけば、などのご意見があった。計画を考えるだけではなく、実際に行動に移し試行錯誤しながら進めるまちづくりの進め方は全国的にも多くなってきており、篠路地区でもその足がかりとなる場を実験的に作りながら、今後のまちづくりの体制や、これから生まれていく空間、必要な場づくり、空間づくり、そういったものに続けていきたい。

(社会実験について)

- まず小さくても良いのでまずやってみようというご意見を踏まえたスモールスタートとして、いまある空間を活用して新しいコミュニティの種を作り、まちづくりの可能性を広げていくため、駅前の私有地の一部をお借りして、オープンスペースとして活用し暫定的なコミュニティの空間を作る社会実験を、10月31日から1週間実施する。
- この社会実験の狙いは大きく2点ある。1つ目として、これまで出てきたご意見を実際に試しながら、これから始まるハード整備や建物の建て替え、民間投資に対してどんな空間が必要や場が必要なのか、反映させていく可能性を少しでも広げていきたい。二つ目として、ハードのみならずソフトも含めたまちづくりに対する地域の方々の意識、興味をより高めてもらう、より多くの方に持っていただくということで、自分たちのまち篠路への愛着、あるいは誇りを高めてよりよいまちづくり、より持続的なまちづくりを進めていくということ。特に二つ目については、この地域主体のまちづくりを加速させていくというための重要なきっかけと考えている。
- 期間中、簡易ではあるが、人工芝や椅子、テーブルを設置して、休憩、団らん、コミュニティ作りなど多様な利用ができるようにしていく。また土日祝日についてはキッチンカーやワークショップスペースを設けてより来なくなる空間、来た方同士で会話が弾むような仕掛け作りをしていく。今回、ホッとしのろ21からのご提案でボタニカルの設置、しのろ紙袋ランタンまつり実行委員会からのご提案でランタン祭りの普及啓発や実物展示も行う。また、小澤委員のご協力によって、札幌駅前のアカプラなどでも設置されたことがある移動可能な和室も、6日、7日の2日間で設置する。最終日には鈴木委員長や内川委員にもお越しいただいて、昨年度末に実施した座談会のような、地域の皆さんも交えたトークイベントなども企画している。地域協議会で寒さへの対策についてご指摘をいただいたことを踏まえ、ストーブを設置して、夜間はもちろん昼間もそれを囲みながら街の新しいコミュニティの場について皆さんと考えていく場づくりも目指していく。
- この社会実験はあくまでも長期的なまちづくりを進めていくための一つのツールであり、試行錯誤しながら地域の方が地域主体のまちづくりを進めるための一つのきっかけと考える。にぎわい交流の場としての表情作りも供するものである一方、催事やお祭りという位置付けとは若干異なるも

のであると考えており、集客すれば良いというものではない。また、今回はコロナ禍等の影響で晩秋の時期の検証からのスタートとなったが、今後は暖かい時期も含めた様々なシーンについても試行していくことを想定している。今回は最初なので札幌市事務局が主体的に企画を進めたが、今後は地域協議会の方をはじめとした地域の方々が場を育てていくことを期待している。

(地域のステークホルダーと課題について)

- これから整備される空間があるなか、その活動の場を考えるにあたって、地域協議会に参加されている各組織の方々が抱えている課題や展望、整備される場でこういった解決ができるのか、あるいはそのために必要なアイデア、空間の在り方について意見交換をしてアイデアをいただく想定をしていた。その前の課題だしの議論が中心となってしまい、その後のご意見、アイデア出しまで十分に話し合う時間が取れていないため、次回に持ち越して話し合いをさらに深めていく考えである。
- 重要なお意見として、コロナ禍の中で地域の方同士が顔を合わせて話し合える場や機会がぐっと減ってしまった、もっと住民や地域の方が自分ごととして篠路というまちを考えていく必要がある、まちづくりを進めていく主体になる人がいなければコンセプトに掲げている誰もが暮らしやすく笑顔あふれるまちにはならない、というようなご意見を頂いた。地域主体のまちづくりを進める上で非常に重要なお意見であると捉えている。
- 地域協議会では、これまで主にまちづくり計画について確認や意見出しをする場の役割を主にして、検討委員会とセットで開催をしてきた。しかし今後、このような場をもっと柔軟に開催して地域の方同士でより深く意見交換できれば、あるいはそういったことをしやすくする場を増やしていく必要があると考えている。

(委員)

- 寒い時期での開催になるが、今後日常的に使っていくという意味では色々試せていいのではないか。
- 団体との連携は説明でもあったが、当日に企画を持ち込んで試すといった空間はあるのか。
- 人が集まる実験なので、やってみたいというニーズが出てくると思うし、地域協議会や検討委員会の意見など、柔軟に話せる機会が構築できるとよい。Facebook など SNS の活用もある。そうすれば地域の関わりしろが増えていく。また、社会実験は地域の方がいいと思える風景を実験する場だと思うので、上手くやっているとよい。

(委員長)

- こうした場を今後試行的に作っていく第一歩なので、こうしたことをした

い、改善したいなど色々なご意見を頂きながら進めたい。

(事務局)

- 今回の社会実験は場を育てることが非常に重要だと思っている。例えば持ち込み企画などを受け入れながら場を盛り上げて、みんなで作っていくような場に育てていきたいと思う。場所も限られ、また地域の方もいらっしゃることもなので、ある程度限られた中にはなるが、少しずつみんなで作っていくような場に育てていければ将来的な駅前広場、公園、高架下などの活用しろが広がっていくと思う。

(委員)

- 利用者がどの範囲からきたのか、広報したところから来たのか、それ以外から来たのか、どこから来たのか、こうしたデータについてはどのように考えているか。

(事務局)

- 実際にこの場に来ていただいでくつろいでいる方やキッチンカーで買い物をされる方、通りすがりの方などにアンケート用紙をお配りして、前後の行動も含めた簡単なアンケートにご協力いただきたいと考えている。またQRコードを用いてスマホでもできるような形をとって、なるべく若い方にもその今後の可能性など、そういったものに繋がるような回答いただけるような工夫をしていきたい。
- 事務局が現地にいる際には利用者へヒアリングしてみたいと思う。
- 市のホームページやフェイスブックだけでなく、新聞の折り込みや駅等にポスターを貼らせていただいで広く広報をしている。実際来た方がどう感じておられるのか、アンケート等を使って把握をしていきたい。

(委員)

- 北部3地区の中心となる篠路として方向性に確信を持てる物語ができると成功だと思う、他都市での経験があれば比較するなど大きな計画に沿った取組として分析できるとよい。

(事務局)

- 変化が起きてきたか、ということに触れると、社会実験として継続する意味が出てくると思う。

(委員長)

- 篠路駅が中心なので、JRを利用したのか、地域の方がどれくらい来たのか、しっかりと聞いて今後活かしていただきたい。

(委員)

- ・篠路地区の範囲を明確化し、どのような人口、世帯、男女比、年齢構成について、札幌市全体と比較した現状や、今後10年での目標を数値化して考え方を議論した方が、会議が進むと思う。

(委員長)

- ・今後の資料に反映させていただきたい。

(委員長)

- ・今回、篠路駅の駅前というのが非常に重要な機能を持つことになるかと思うが、今後、まちづくり活動の具体化やアイデアを募るためには、担い手、地域住民の方の議論に加えて、駅前のオープンスペースをどういった活用していただくか、あり方の検討をしていく必要がある。そのためには鉄道駅の駅前計画に深く携わっているJR北海道に参加していただき、情報共有や協働のまちづくりという視点で、いろいろ探っていくべきではないかなと思う。可能であれば方がお声がけさせていただきたいと思っているが、事務局含めてどうか？

(事務局)

- ・JR北海道に議論に加わってもらえないか打診し、次回の会議開催までにご報告させていただく。参加いただけるような形で進めてまいりたい。

3 おわりに(事務連絡など)

(事務局)

- ・本日頂いたご意見については、次回に向けて検討していく。
- ・次回は1月以降の開催を予定している。後日ご案内をさせていただく。
- ・傍聴については、シノロナビやホームページにて情報提供する。